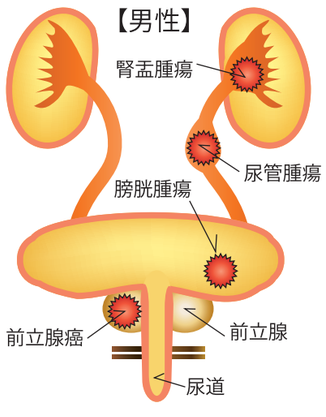
いぶり腎泌尿器科クリニック 広報誌
IBULIVE いぶりぶ
いぶり+Live
NO.39 秋号

泌尿器科で治療する悪性腫瘍について

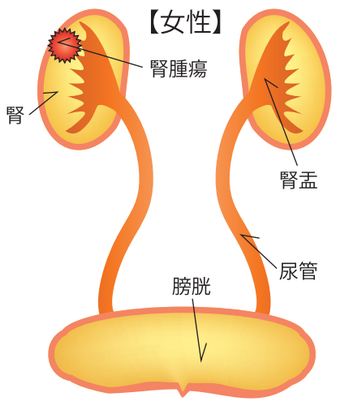
坪院長の健康講座

院長　坪　俊輔

今回は泌尿器科で治療する一般的な悪性腫瘍についてその概要をお話します。まず泌尿器科で扱う臓器について、男女別に図示しました。腎癌は腎の実質にできる腫瘍で、血尿・疼痛などの症状が出ますが、全くの無症状でCTやエコーで偶然みつかる場合が多いようです。

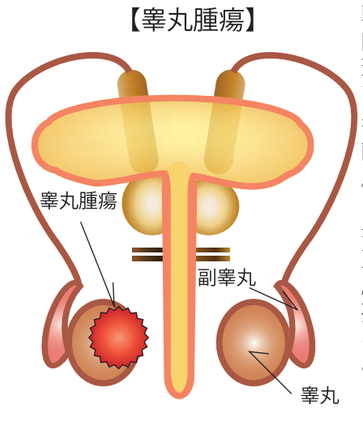


治療は腫瘍摘除が第一で、再発・転移例に対しては薬物療法を行います。腎盂～尿管～膀胱にできる悪性腫瘍を尿路上皮癌といい、ほとんどの症例で血尿を伴います。治療は腫瘍摘除が第一です。このうち最も多い膀胱癌に対しては、まず経尿道的内視鏡手術を行い、腫瘍の悪性度、進達度などを調べたうえで次の治療を検討します。経尿道的切除だけですむ症例も多数ありますが、補助療法として膀胱内薬物注入療法、また場合によっては膀胱全摘出術が避けられない症例もあります。



腎癌や腎盂・尿管腫瘍に対する手術は開腹手術のほかに腹腔鏡を使った内視鏡手術も行われます。前立腺癌（男性にのみ）は頻度の高い泌尿器科癌です。排尿障害や血尿・転移部位の疼痛などの症状が出ますが、前立腺癌のマーカーであるPSA（前立腺特異抗原）の高値のみが陽性所見の症例も多くあります。転移・浸潤のない症例（限局癌）で若い年齢層では根治手術（開腹手術や腹腔鏡手術、ロボット支援下手術など）を検討します。

高齢者は内分泌療法（抗男性ホルモン療法）を考慮しますが、限局癌には放射線治療も有効です。なお進行前立腺癌では内分泌療法が第一選択と考えます。ほかに比較的若い年齢層で睾丸腫瘍をみます。症状は堅く腫大したほぼ無痛性の睾丸の触知が典型的で、まず睾丸摘出を行い、その後放射線治療や化学療法が必要となる場合もあります。



以上、泌尿器科で治療する一般的な悪性腫瘍につきその概要をお話しました。

危機管理と職員教育　横浜市の病院で発生した事例から考えること…

神奈川県横浜市の病院で点滴薬の中に異物が混入され、入院患者が死亡する事案がありました。状況から内部関係者によるものといった可能性が高く、全国の医療現場に衝撃をもたらしております。これは極めて特異な事例といえますが、現実に発生したことに間違いはなく、同様のことが過去にもあったことも事実です。各医療機関においては利用される患者様にとっての「安全・安心」について、積極的な取り組みが求められます。当院にはこういった事例はもちろんございませんが、これに驕（おご）ることなく以下の項目で「危機管理」と「職員教育」に取り組んでおり、安全・安心の確保に努めております。

【スタッフの健康管理】横浜市において発生した事案は特異な事例ではありますが、人口が密集する都市圏に限定的に発生するものではなく、言い換えればどこにでも発生し得ることです。この防止策として重要なのは病院スタッフの健康管理であると考えます。心身ともに健康であることが、医療現場に求められ、このことが患者様への「安心・安全」を担保する重要要素と考えます。当院ではこれに鑑み年２回の健康診断と同１回のストレスチェックを実施しております。また、職員に過度なストレスを与えることがないよう、「職場環境」にも十分配慮しております。

【医療安全】坪院長をトップ（委員長）にした「医療安全管理委員会」を設置、毎月第４木曜日に委員会を実施し、「医療安全管理マニュアル」も整備しております。全職員参加の防災訓練は毎年10月に実施、非常時に備えた「緊急連絡網」も整備してます。また、夜間・休日対策としてクリニック近隣在住の職員 6人で「緊急出動隊」を組織、万が一に備えています。

【薬品の管理】薬局は夜間・休日は施錠管理し、ナースステーションにおいては看護師による責任管理を徹底しており、安全確保を図っております。

【不審侵入者対策】外部からの不審侵入者対策は夜間・休日は警備員を配置、各階には非常用に「さすまた」を配備し、防犯カメラも各所に設置しています。また、必要に応じては伊達署など公的機関との連携も考えていきたいと思います。

【スタッフ教育】年１度の「看護研究発表会」や外部講師を招いた管理職研修、外部研修への参加（学会など各研究機関による会合）は年初計画に基づき職員の積極的な派遣を実施しています。

以上の項目で危機管理、及び職員教育に取り組んでおりますが、当然これが 100％とは考えておりません。さらに利用される患者様を第一に、安心・安全で良質な医療を持続的に提供できることを目標に取り組んで参ります。また、患者様のご意見も反映させて参りますので、お気づきの点や不安な点がございましたら、ご遠慮なく待合室に設置されている「ご意見箱」をご利用され、皆様のご意見をお聞かせください。

学習　ノーベル化学賞受賞者・野依良治氏の公開講座があります

コレージュ・ド・ダテ　第14回公開講座

化学者・ノーベル化学賞受賞者　野依良治氏を迎えて

2016.10.20＜THU＞・開場 18：00・開講 18：30

テーマ　**私の来し方　若人が創る明日の社会**

■入場無料（申し込み不要）

■会場＝だて歴史の杜カルチャーセンター「大ホール」
伊達市松ケ枝町 34-1　TEL0142-22-1515

Collège de Date（コレージュ・ド・ダテ）は、発案者の画家・野田弘志先生の高い理念に賛同する個人、団体で運営されるサロンで、様々な分野の講師を招き、誰でもが聴講することができます。

■主催　〈コレージュ・ド・ダテ〉Collège de Date　■共催＝伊達市・伊達市教育委員会

◎お問い合わせは　TEL090-3114-1709〈横井〉　◎今回はサイン会を行いません。

column 待合室 No.39

社会の維持

●私が小学生のときだから、約 50 年も前のことです。その頃の小学校は、知的障害を持った子も一緒の学級で勉強しました。「偏見」とかそういったものはなく、というより一緒にいるのが当たり前で、特別な意識はなにもありませんでした●当時の視力検査は、大小にプリントしたひらかなを判別する方式で、現在のような丸印が欠けている方向を識別するものとは違っていました。そんな検査で障害のあった同級生Ｙ君は指された文字に無反応で、困った先生が「どうした」と聞くと「読めません」と答え、その場に居合わせた一同大爆笑した思い出があります●笑いは嘲弄ではなく、検査という一種独特の雰囲気を一言で打ち消し、緊張感から解放してくれたＹ君を称え、感謝する笑いだったと記憶します。同級生はＹ君に障害があることを当然理解していたし、その事実を基に学校生活を一緒に楽しんでいました。みんな大事な級友であることを認識していたと思います●今年７月、神奈川県相模原市の障がい者施設で、信じられない事件が発生しました。詳細は大きく報道されましたので、皆さんご承知の通りですが、その偏った動機が実際何であったのか理解に苦しみます●近年、こういった過去に例のない事件が頻発しています。簡単に人の命を奪う非行少年グループの犯行、家族間の殺人事件、幼児虐待など。その全てが弱者を巻き込む事件で、動機が曖昧な事例がほとんどです。また、「キレる」高齢者の増加や主婦層を中心に広がるクレーマーの問題は、学校教育現場での「モンスターペアレント」なる言葉も生み出しました●対応策として、警察ＯＢを雇用する企業や大型の商業施設、公共施設も多いといいます。防衛策も大切でしょうが、本当にこんな流れで良いのか？考え込んでしまいます。こういった原因の一つに「幸福感の欠如」を挙げる研究者がいます。家庭や社会での関係崩壊から孤立し、ある意味狂暴化に走ってしまうのだそうです。根底にあるのは不安と孤独です●社会の維持が困難になってきた現代を救うのは、「教育」しかないのでは―。人口減少から効率化を重視し統廃合が進む学校、小・中学校がなくなった地域の増加。そんなことも含め、教育の在り方から考え直すことが、いま求められているような気がします。

新人スタッフ紹介　佐伯利恵子外来看護師

10 月１日から仲間入りした佐伯利恵子外来看護師は生まれも育ちも伊達、小学校から看護学校まで伊達市内だったという徹底ぶり。

准看護師でスタートしたキャリアは今年で 20 年目、正看護師の資格は通信制で取得（平成 26 年）したという頑張り屋さんです。療養型の病院や小児科の看護師として経験を積んできましたが、当院のような専門病院での勤務は初めて「まだ入ったばかりで右も左も分からない状態ですが、早く皆様のお役に立てるよう頑張ります」と奮闘中です。

伊達中、伊達高とバスケットボール部で活躍「チームプレーが要求されるスポーツで、礼儀も身に付き貴重な体験をしました」と振り返る。趣味はたまに行く札幌でのショッピングや、気ままに１人で走り回るドライブを兼ねた温泉めぐり。

看護師になってからは「先を読み素早く動く」をモットーに業務に臨んで来たそうです。今後の目標は「患者様から頼りにされるよう、早くひとりだちしたい」と目を輝かせていました。

社会貢献　坂東昌志薬局長が講演　伊達市教育委員会の研修

アレルギーショック時の対応を講義

小中学校の教職員を対象に指導

熱弁を展開する坂東薬局長

7 月 27 日、伊達市役所庁舎内で行われた研修会（同市教育委員会主催）で、当クリニックの坂東昌志薬局長が講師を務め、重症なアレルギー反応（アナフィラキシー※1）が出た場合の対処法について講義しました。対象は伊達市内、小中学校の教職員ら合わせて約 40 人。

参加者は、アレルギー症状の進行を一時的に緩和する自己注射薬「エピペン※2」の使用方法など、適切な処置の仕方や心構えを聴講、正しい対処方法を学ぼうと熱心に受講されていました。また、食物アレルギーの特徴や症状についても解説、実際にアレルギーを発症した場合、太ももへのエピペン投与の迅速な仕方など、生徒の生命を守る重要な内容を、真剣に聞き入っていました。

同教委によると市内児童生徒 2,557 人中、約 200 人（5 月 1 日現在）に食物アレルギーがあり、エピペンを携行する生徒は 6 人いるそうです。文科省の調査では全国的な少子化のなか、アナフィラキシーのり患者は逆行するような増加傾向にあり、2007 年と 2013 年の対比では、り患率が約 2 倍の増加になっており、このような研修は大変重要と言えます。当院としても今後積極的に協力していく所存です。

※1：アナフィラキシー（英：anaphylaxis）とは、ヒトや他の哺乳類で認められる、急性の全身性かつ重度なＩ型アレルギー反応の一つ。ほんの僅かなアレルゲンが生死に関わるアナフィラキシー反応（アナフィラキシーショック）を引き起こすことがある。アナフィラキシーは、アレルゲンの摂取、皮膚への接触、注射や時に吸入により惹起され得る。

※2：エピペン（Epinephrine autoinjector）とは、ハチ刺傷、食物アレルギーなどによるアナフィラキシーに対する緊急補助治療に使用される医薬品です。アナフィラキシーを起こす可能性の高い患者が自宅に常備することで、発症の際に医療機関へ搬送されるまでの症状悪化防止に役立っている。汎用の正式名はエピネフリン（アドレナリン）・オートインジェクターであり、エピペンはマイラン・インコーポレイテッド社の登録商標（第 4598961 号ほか）。他社ではツインジェクトなどの商標のものがあります。

お知らせ　インフルエンザ予防接種のご案内　接種期間　平成28年11月1日▶12月24日

料金　一般の方　《1回》3,500円

※ワクチンがなくなり次第、終了とさせて頂きます。
●次回受診日にあわせて接種することをお勧めいたします。

○伊達市・壮瞥町・洞爺湖町・豊浦町にお住まいで予防接種を受ける日までに 65 歳以上になる方。上記4市町にお住まいの 60 歳～ 64 歳の方で心臓病、腎臓病、呼吸器の機能に自己の日常生活が極度に制限される程度の障がいを有する方。▶《1回》1,500円

○同4市町にお住いの 65 歳以上で生活保護世帯の方と世帯全員が市民税非課税の方
〈各市町発行の生活保護受給者証、非課税証明書（手数料が必要です）を当日ご持参ください〉▶無料

●当院の予防接種対象患者様は 15 歳以上の成人の方のみとなります。●ご不明な点などございましたら、職員までお問い合わせください。

医療法人 社団 泌尿器科・血液透析 いぶり腎泌尿器科クリニック
■発行：いぶりぶ発行委員会
■発 行/平成28年 10月10日■4月・7月・10月・1月の年4回発行
伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL0142-21-1400 FAX0142-21-1401
※本誌掲載の写真、記事の無断転用は固くお断り致します。
●発行責任者：横井　浩